

研究課題：腎腫瘍性病変に対する造影超音波検査の有用性の検討 後ろ向き研究

実施責任者：総合画像診断センター	医員	齊藤 弥穂
実施分担者：総合画像診断センター	教授	平井都始子
放射線科	教授	吉川公彦
中央放射線部	准教授	丸上永晃
泌尿器科	教授	藤本清秀

研究目的：造影超音波検査を行った腎腫瘍性病変について後ろ向きに所見の臨床的有用性を検討する研究です。

研究意義：腎腫瘍性病変の診断には血流情報の評価が重要です。腫瘍の大部分は腎細胞癌で血流の多い腫瘍ですが、CT や MRI など典型的な血行動態を呈さず、診断に苦慮する場合があります。造影超音波では CT や MRI よりも安全に詳細な血流情報が得られます。

また、腎機能低下例や透析患者さんにおいては CT や MRI の造影剤の使用に制限を生じることから、腎排泄ではない超音波造影剤の使用で安全に診断が行え、詳細に評価することで臨床に貢献することができると考えられます。

この造影剤は肝腫瘍と乳腺腫瘍以外には保険適応がされておりませんが、当院では患者さんの同意を得て実施しております。

対象：研究対象者は当院総合画像診断センターの中央超音波室で 2007 年～2019 年の間に造影超音波検査が施行された約 60 例です。

研究期間：この研究は、奈良県立医科大学の医の倫理審査委員会承認年月日から 2021 年 3 月 31 日まで行う予定です。

研究方法：当院総合画像診断センターの中央超音波室で造影超音波検査を実施された、腎腫瘍性病変の症例を抽出します。症例の診療情報を確認後、超音波画像と他画像検査所見、組織型の対比を行い、臨床的な有用性の評価を行います。

当該研究に参加することにより期待される利益および起こりうる危険ならびに必然的に伴う心身に対する不快な状態について：対象患者様が受ける利益・不利益はありません。

個人情報の取り扱い：収集した情報は名前、住所、年齢など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会などで発表される予定ですが、発表内容に

個人を特定できる情報は一切含まれません。

その他：本研究は、本学の医の倫理審査委員会の承認および学長の許可を得て実施します。本研究は、過去に施行された検査を後方視的に検討するのみであり、この研究のために患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。また、研究の対象となる患者さんに謝礼はありません。この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。

上記の研究の対象に該当する患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合には、奈良県立医科大学附属病院 総合画像診断センターまでご連絡ください。

問い合わせ先：齊藤 弥穂（奈良県立医科大学 総合画像診断センター）
連絡先 0744-22-3051（代表）、内線(3467)